

保健管理センターにおける原著論文数の推移

齊藤 郁夫*

慶應義塾の保健管理センターの業務の特徴の一つとして研究がある。以前、1972年からの全国大学保健管理研究集会、内科学会などにおける発表について報告したが¹⁾、今回は1995年以後に発表された論文数についてまとめた。

対象と方法

1996年に刊行された慶應保健研究第14巻1号から2010年の第20巻1号までの論文および、慶應義塾大学保健管理センター年報1996から2009までの業績のまとめから、慶應保健研究および外部誌に掲載された日本語原著論文、英文原著論文を抽出した。研究領域をアレルギー疾患（膠原病・リウマチ性疾患を含む）、感染症、

高血圧、循環器疾患、消化器疾患、腎疾患、生活習慣（食事・喫煙を含む）、代謝・内分泌疾患（肥満・やせを含む）、呼吸器疾患、精神保健、婦人科疾患、遺伝子多型検査、健診業務、学校安全（外傷を含む）、保健管理業務のどれか一つに分け、また、年代を1996年から2000年、2001年から2005年、2006年以後に分けて検討した。さらに、慶應保健研究の論文の研究対象についても検討した。

成 績

1996年以後、日本語、英文を合わせ原著論文数は463であった。そのうち、慶應保健研究と外部誌を合わせ日本語原著論文は計222（表1）、

表1 1996年以後5年毎の原著論文数と慶應保健研究および外部誌掲載の内訳（日本語）

研究領域	1996-2000	2001-2005	2006-2010	慶應保健研究	外部誌	計
アレルギー疾患	6	0	1	3	4	7
感染症	6	5	7	17	1	18
高血圧	13	10	12	26	9	35
循環器疾患	4	4	5	13	0	13
消化器疾患	0	4	1	3	2	5
腎疾患	1	0	0	1	0	1
生活習慣	7	11	4	22	0	22
代謝・内分泌疾患	25	20	18	54	9	63
精神保健	2	8	11	16	5	21
婦人科疾患	0	2	0	2	0	2
遺伝子多型検査	0	2	0	2	0	2
健診業務	5	2	4	11	0	11
学校安全	2	6	7	15	0	15
保健管理業務	0	3	4	7	0	7
計	71	77	74	192	30	222

* 慶應義塾大学保健管理センター

外部誌における英文原著論文は計241であった（表2）。2001年以後は英文原著論文数が増加し、日本語原著論文数をうわまわった。

日本語原著論文の領域としては、肥満・やせ、糖・脂質代謝異常症、インスリン抵抗性、高尿酸血症、骨粗しょう症などを含む代謝・内分泌疾患が最も多く、高血圧・循環器疾患、精神保健、感染症領域も多かった。保健管理センターの日常業務により密接にかかわる学校安全、健診業務、保健管理業務についても報告されている。（表1）一方、英文原著論文の領域として

は代謝・内分泌疾患、高血圧、消化器疾患、精神保健領域が多かった（表2）。

慶應保健研究の対象としては、小学校・中学校・高校と大学・教職員がほぼ同数であった（表3）。

慶應保健研究において2つの領域にまたがる論文が52あったが、ワクチン接種、感染症の抗体保持状況など感染症と学校安全に関するもの、食事、運動、喫煙などの生活習慣と代謝・内分泌疾患の関係、高血圧と代謝・内分泌疾患の関係などが多かった（表4）。

表2 1996年以後5年毎の英文原著論文数

研究領域	1996-2000	2001-2005	2006-2009	計
アレルギー疾患	4	0	0	4
感染症	1	1	1	3
高血圧	11	12	29	52
循環器疾患	1	0	0	1
消化器疾患	10	13	9	32
腎疾患	0	3	0	3
代謝・内分泌疾患	22	38	32	92
呼吸器疾患	9	0	0	9
精神保健	0	19	12	31
遺伝子多型検査	3	9	2	14
計	58	95	85	241

表3 慶應保健研究の掲載論文における対象の内訳

小学校	14
小学校・中学校	9
中学校	28
中学校・高校	1
高校	32
大学	47
教職員	46
外部	14
保健管理センターからの論文	1
計	192

表4 慶應保健研究における2つの領域にまたがる論文数

研究領域	
学校安全・感染症	18
学校安全・循環器疾患	4
代謝疾患・生活習慣	13
代謝疾患・高血圧	11
代謝疾患・消化器疾患	2
代謝疾患・腎疾患	1
精神保健・循環器疾患	2
精神保健・代謝疾患	1

考 察

今回の検討により，保健管理センターから年平均30の原著論文が発表されており，その半数以上が英文論文であることが明らかとなった。研究領域では日本語，英文とも代謝・内分泌疾患が最も多く，2領域にまたがる研究では学校安全における感染症予防が多かった。

全国大学保健管理研究集会での発表では感染症，代謝・内分泌疾患が多く，内科学会総会における発表では代謝・内分泌疾患，感染症，高血圧が多かった傾向と一致した¹⁾。

慶應義塾の保健管理センターの保健管理の対象数は小学校から高校までの約7000人，大学約33000人，教職員約6000人にわたっているが²⁾，これまでの研究の対象については，小学校から高校までと，大学，教職員，外部がほぼ同数であった。

総 括

1. 保健管理センターから年平均30の原著論文が発表され，その半数以上が英文論文であった。
2. 研究領域では日本語，英文とも代謝・内分泌疾患が最も多かった。
3. 研究対象は小学校から高校までと大学，教職員，外部がほぼ同数であった。

文 献

- 1) 齊藤郁夫：保健管理センターにおける研究の推移．慶應保健研究 26：13-16，2008
- 2) 慶應義塾大学保健管理センター：学生定期健康診断，教職員定期健康診断，児童・生徒定期健康診断．慶應義塾大学保健管理センター年報2009，2010